

長町トークセッション

～歩いて楽しい街並みづくり～

開催レポート
発行：太白区

まちづくり推進部地域力推進担当

太白区では、JR長町駅周辺～旧国道4号沿線の「歩いて楽しい街並み」づくりを地域の皆様とともに進めてまいります。3月18日に開催した座談会形式のトークイベントの概要をお伝えします。

日時 令和5年3月18日(土)14:00～16:00 (会場 khbぐりりホール) 参加者数：104名
登壇者 長町商店街連合会会長 大友 克人 氏
国土交通省東北地方整備局建政部 都市・住宅整備課長 高濱 康亘 氏
特定非営利活動法人 スロコミ 代表理事 林 久美 氏
仙台市都市整備局計画部都市計画課長 井藤 由親
仙台市太白区まちづくり推進部地域力推進担当課長 伊勢 貴
司会 特定非営利活動法人 都市デザインワークス 代表理事 榊原 進 氏



○ 開催趣旨・今後の方針等の説明 「歩いて楽しい街並みづくり」に向けて

太白区長 檜森 亮

- ・本日のトークセッションでは、長町のまちづくり、特に旧国道4号沿線を中心とした長町商店街エリアにおける「歩いて楽しい街並み」づくりについて考えたい。
- ・長町は仙台南部の交流拠点。歩いて楽しい歩行空間や街並みの形成を図っていく。実現に向け、あすと長町や長町南の賑わいづくりの取組と連動し、旧国道4号沿線を中心とした長町商店街エリアにおいて、今まで以上に魅力的な街並みづくりについて地域の皆様と検討していく。このトークセッションが官民協働のキックオフになればと思う。
- ・店主の高齢化、事業継承の難しさ、などの課題もあるが、あすと長町と長町南を結ぶエリアとして賑わいを取り込む高いポテンシャルを持つ。
- ・今、車中心の道から、人中心の道へ。「歩いて楽しい街並み」、「ウォークアブル」という言葉が日本でもまちづくりのトレンドとなり、道路はただ通過するための場ではなく、賑わいの場としての道路の利活用について自治体と地域住民と一緒に知恵を働かせる時代に。
- ・車線を減らして歩道を広げ、歩きやすいだけでなく仮設店舗を建てたり、ベンチを置いたり。市内では定禅寺通の取組が先行して行われている。ワークショップや社会実験を繰り返し歩道拡幅や賑わい空間整備に向けて取り組んでおり、管理運営を行うエリアマネジメント組織もできた。

- ・「歩いて楽しい街並み」には、安全・快適・五感による楽しさが備わる歩道や道路などの空間と、沿道の建物が織りなす景観(ファサード)が重要。
- ・例えば年に1度でも非日常空間が現れ、長町で何かが起こる、長町に行けば何かに出会える、という街、空き店舗や仮設店舗などで新しく商売を始める人が現れる街など、古くからの良いところを大切にしながら、新しいものと融合しさらに魅力のある街となる将来の姿をぜひ見たい。
- ・空間の整備やイベントの開催は一つの手段だが目的ではない。人が歩くことで人との出会い、まちとの出会いが生まれる。街並みの空間で展開される賑わいのストーリーを生み出し、主人公となるのは、この街に住み、この街で活動する皆さん。
- ・来年度から地域の皆さんと一緒に、長町商店街エリアの街並みについて、将来ビジョンとしてまとめていきたいと考えている。その次の段階では実現に向けて具体的な方策を関係機関や専門家も入れて検討していく。必要に応じ道路活用の実験を行いながら、将来的には空間整備や新しい店舗の開業等に繋がれば。
- ・取り組みを通じ、長町を良くしようという仲間がどんどん増え、議論に参加していただきたい。たくさんのお意見をお聞かせいただきたい。

○ トークセッション

榊原氏

- ・キーワードは「歩いて楽しい」と「街並み」の2つ。「楽しい」は主観的なものなので、このトークセッションを通じてどのような楽しさがあるのか掘り起こし、どう長町で実現していくかを考えたい。
- ・「街並み」とは行政が整備管理する歩道や道路などの公共空間や、お店の営みや雰囲気も含めた沿道の建物、さらには人も含めた総体。

高濱氏

- ・ハード整備で終わり、ではなく、ウォークアブルな、歩いて楽しい街づくりが大事。道だけでなく、道に面する店や建物、広場の活用促進も。街並み全体に人や活動も含めて考えていく必要がある。

自己紹介(割愛)と「歩いて楽しい」

榊原氏

- ・皆さん自身が考える「歩いて楽しい」をコメントしてください。ちなみに私は歩いての通勤が好きで、日々表情が違う街の変化が楽しいと思っている。

大友氏

- ・三丁目四丁目商店街をサンカトゥール商店街と改称した。サンは3やSUN。カトゥールは仏語で4。3+4=7となり幸福な商店街の意味も込めた。立ち止まって見ることができる街、商店街が良い。

林氏

- ・立ち止まりたくなるということが重要。そこにいと知っている人がいる。寂しくない、温かい気分になる、というのが理想。

高濱氏

- ・街が、道沿いの活動や店も含め、感じられると楽しい。個性が感じられるとなお楽しい。

井藤

- ・歩いて楽しいを言い換えると、歩けないところを歩けるから楽しい。道路を止めて歩きたい。広瀬橋からJR長町駅までを通行止めにして歩けたら楽しそう。

伊勢

- ・歩くことが移動の手段ではなく、歩くことがアクティビティになると楽しい。猫を探しながら田代島(石巻市)を歩くとそれだけで楽しい。

登壇者の取組等紹介

高濱氏

- ・道路と街路は別物であり、人間やその活動などが街路という言葉には込められている。
- ・事例：ニューヨーク・タイムズスクエア→もともとは車道が交差し狭い歩道に人が溢れていたが、ブロードウェイの歩行者空間化により、人が過ごし易い空間になった。道の使い方の可能性を例示している。
- ・事例：バルセロナ→車の通行ルールを変えただけの取組みだが、車が来ないポイントで人が憩えるようになった。街路の歩行者空間化が飲食店や小売店の売上に良い影響を与えることがビッグデータで明らかになった。
- ・事例：京都四条通→片側4車線を、2車線にまで減らした。
- ・事例：出雲神門通→歩道の舗装パターンを車道にも滲み出させることで、人と車の共存が実現。
- ・事例：新宿モア4番街→駅前の歩行者天国化を低予算で実施。
- ・事例：松山市ロープウェイ通→人が滞留できる場所を作ったり、双方向通行を1車線一方通行にしたら周辺の地価が上昇した。
- ・事例：山形すずらん通→学生と連携し、車を規制シアートのイベントを実施。
- ・事例：仙台青葉通→社会実験を実施。車道はタクシー・バス及び自転車のみとして車線減少し広場化。
- ・事例：盛岡→2009年から実施してきた歩車共存の取組みが実ってきている。
- ・長町は宿町間で間口が狭い土地が多く、店先が次々に変わるリズム感が良い。一方で、商店街が長く、また4車線と対岸が遠いため、街路としてのまとまりをどう作るかが課題。
- ・長町は住む人、来る人が多く、エリアとしてポテンシャルがある。
- ・道と沿道の関係性が、街路を形成する。まちの視点から、エリアが目指していくビジョンを明確にしていけることが必要。

大友氏

- ・長町はこれまでの歴史の中で、仙台市への合併や、市電や国鉄操車場の廃止、3度の震災など、環境の変化に見舞われてきた。
- ・操車場跡地への音楽堂や物産館の建設計画が立ち消えになっていくなかで、市立病院の転院は地域の利益となった。
- ・商店街では「長町商店街まちづくり憲章」を作り、自分たちで努力して集客に努めてきた。
- ・長町商店街の街の魅力づくりに電柱の地中化は寄与。段差の解消も必要。
- ・JR線の高架化に伴いJR長町駅が北にずれ交通量が減った。地下鉄の開業により人の流れが変わり長町を歩く人が減少した。
- ・共働き家庭が多くなり、地下鉄で働きに行くようになって、長町での買い物が減ったのは痛手。
- ・今後望むことは、主に3点。①長町一丁目から長町駅までの車道を、片側1車線にし、1車線化で生まれたスペースに、歩行者が歓談できる場を作る。②街路樹を撤去して街路灯の設置、デザイン化を図る。③車道を定期的に歩行者天国とし、あすと長町のイベント等と連携した回遊策。

榊原氏

- ・長町は、半径1km内という徒歩圏内に、約3万6千人が住んでいて、子育て世代も多い。
- ・歩いて暮らせるエリアで、商店街があるということが大きい。

井藤

- ・仙台市都市計画マスタープランで基本とするまちづくりは、人口減少を迎えるにあたり、地下鉄沿線に都市機能を集積した機能集約型の都市づくり。
- ・様々な人に選ばれる都市となるためには、人を中心とした視点での都市づくりが重要。
- ・広域的な賑わいや、魅力の創出が大事。
- ・イベント開催時に重要なのは、キラーコンテンツがあるかということ、非日常感があるかということ。例えば東京マラソンなどは、車道の真ん中を走るという非日常体験であり、そのような体験を大切にすることが必要。
- ・街の連続性を持たせるときに、河川や鉄道は阻害要因になりがちだが、長町は高架化によって東西の連絡性が保たれている。

林氏

- ・介護施設は地域の中にあるべきで、介護を受けるようになっても地域の人と関わっていく必要がある。要介護や認知症になった方たちが活躍できる場を作りたい。2025年に高齢化率が30%を超えると言われている中で、商店街に介護施設を作ったのは意図的。
- ・何をやっているか、覗いて気軽に入れるようにしたかったので、駄菓子屋を始めた。高齢者が店番をしている。
- ・高齢者だけでなく、障がい、ハンディキャップがある人も、ちょっとしたサポートがあれば活躍できるので、そういう人がいるのが当たり前空間を作りたい。
- ・認知症のある高齢者の出番を作るために、コーヒー焙煎部の活動を始めた。
- ・学生、社会人からシニアまで参加し、長町が良くなる企画を持ち寄る「長町アイデア会議」も開催している。ルールは、長町商店街で1,000円以内で買ったものでの交流。

榊原氏

- ・4人のお話を受けて、感想など。

伊勢

- ・賑わいを作っていくためには、場作りが重要で、道路をいかに街路にしていこうかということに示唆を受けた。
- ・個店の売り上げ向上のために、空間づくりの面で行政が強力にバックアップできれば。
- ・都市マスタープランには商店街の将来パース図は載っていない。これから皆で作っていくもの、と捉えた。長町の皆さんと一緒に、スクリーンに投影できるようビジョンづくりを行ってほしい。
- ・スロコミのような拠点が街にあることが素晴らしい。間口を広くしてどなたでも集まれる場所が街にあると楽しい。そのような拠点が2つ、3つ、4つと長町が増えていくと回遊性の向上にもつながっていくのだろう。
- ・長町は、スロコミ、ナガタク、ジーバーフードなど、新しい取組みの発信者が多い。新しいことにチャレンジする人が集まってくる街になればと思う。

長町の街並みづくりに関する来場者のアイデア

榊原氏

- ・今日、受付でご来場の皆さんに長町の街並みづくりのアイデアを付箋に記入していただいた。「これは！」というもののご紹介。

運営スタッフ

- ・「ベンチ」という意見が多い。まちや公園にベンチがあったらいい。食べ歩き系も多い。買って食べながら歩ける。コーヒースタンドの出店。歩行者天国をしてほしい、みんなでわいわいイベントをしたい、なども。

来場者からの意見

- ・長町の目玉、顔をつくるべき。長町宿、笹谷街道、十八夜観音堂(東北最古の木彫像がある)、郡山遺跡、地底の森など魅力的な資源を有効に活用すべき。
- ・東西間の通路を使ってイベントを行い、回遊性を高められないか。東側での夜市の際に西側でスタンプラリーを行い商店街の商品券を景品にするとか、おもしろいのでは。
- ・高齢者になっても住みやすいまちづくりが大事。障がいのある方や子供も歩きやすい街並み、歩道の広さがないと。長町は自転車が多く、車いすで通ると危なく感じる。また、地元にお金を落とすような仕組みづくりをしないと賑わいと魅力の創出に繋がらない。

高濱氏

- ・徒歩や自転車など、遅い交通はまちを感じるのに大事。自転車も推進したいというのが国の基本的な考え方だが、一方で歩行者より速いことから、安全性の確保が必要。

最後に一言ずつ

榊原氏

- ・街路と建物、人と人、東と西など、長町の関係性をどう作っていくかが重要。街路と沿道の関係や、東と西など、境がなくなっていきがちやまげになっているのが理想かなというところが見えてきた。それをどう実現していくかだと思う。

井藤

- ・回遊、滞在の観点からすると、ベンチはあったほうがよい。ベンチは汚れも出てくるが行政の手が届かなくなってくる。気付いた人が一拭きでもしてもらえたら、行政と地域の皆様との協力関係が少しでも進むのではないかなと思う。

高濱氏

- ・長町には地域で元気に活動している方たちがいる。地域の活動が街に染み出してくることが大事。
- ・長町商店街は距離が長くひとつのまとまりに見えづらいという道路構造上の課題があるので、できる部分から限定したエリアで地域としてのブランディングをまず始めてみてはどうか。長町商店街のイメージが何となく付いてくると、地域の外の人に伝わりやすい。
- ・長町といえばあすと長町のイメージが強いが、西側に魅力ある商店街があるので、いかに連携していくかが大事。

林氏

- ・想いを持って活動している方がたくさんいる。みんなと繋がって長町を良くしていく活動をしていければと思う。長町に来るとホーム感があって、安心して落ち着ける街になるとよい。

大友氏

- ・今年は、様々なイベントを実施することが決まっている。来年はさらに魅力あるイベントができるよう提案していきたいと考えている。

伊勢

- ・今日登壇された皆様、ご来場の皆様から多数意見をいただいたが、まだご意見をお持ちの方がたくさんいらっしゃると思う。そのような想いをまずは一つにまとめていきたい。来年度、再来年度にかけて、将来の長町の街並みの在り方について「将来ビジョン」という形にまとめていきたい。皆様の望む長町になればうれしく思う。

【お知らせ 一緒に街並みづくりしませんか！】

太白区役所では、長町、特に旧国道4号沿線の街並みづくりに向けた勉強会の開催や将来ビジョンの作成を地域の方々とともに行ってまいります。長町の街並みづくりにご興味があり、勉強会等の開催情報を希望する方は、下記あて「お名前」「ご連絡先(電話番号や電子メールアドレスなど)」をお知らせください(頂いた個人情報は、本事業に係る今後のご案内以外には使用いたしません)。

太白区地域力推進担当 022-247-1111(内線6182)
tai015020@city.sendai.jp

皆さんと
歩いて楽しい
街並みづくり！

